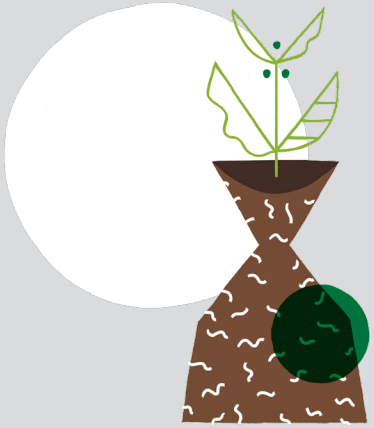
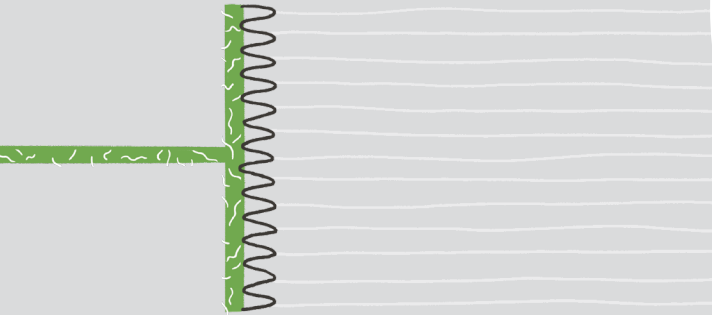


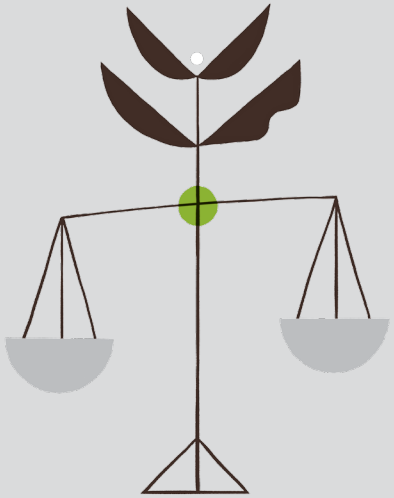
STARBUCKS®

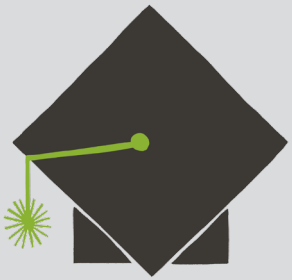
2016

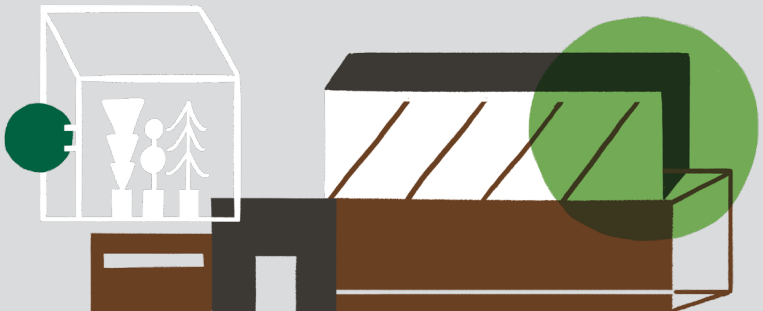
グローバル ソーシャルインパクト パフォーマンス

PERFORMANCE









社内外で着実な成果を達成。

この「2016 グローバル ソーシャル インパクト パフォーマンス」レポートでは、常に人間性という観点に立って業績を追求するという、Starbucks の全社的な取り組みの進捗をお伝えいたします。Starbucks は、全世界 75 か国、330,000 人以上に及ぶパートナーの皆様にご協力いただき、サービス提供における当社目標の大半を上回る業績を上げ、財務面でも昨年に引き続き前年度実績を塗り替えることができました。Starbucks は、当社と長きにわたり戦略パートナー関係を築いているコンサベーション インターナショナル (CI: Conservation International) やフィーディング アメリカ (Feeding America) などの各種機関、さらには全世界のコミュニティ サービス パートナーの協力を得て、当社の規模を活かした社会貢献活動を実現しています。

Starbucks では、明確な価値観に基づく意思決定と全社を挙げた取り組みのもと、一丸となって大きく歩みを進めることができました。これからの 1 年間でも、さらに大胆かつ意欲的な取り組みを進めてまいります。

Kevin Johnson、
プレジデント兼 CEO

さらに加速する取り組み。

Starbucks は、当社の価値観と規模を最大限に活かせる分野として、次の 4 つの取り組みに注力してまいります。

- **コーヒー生産者コミュニティ** に所属する全世界 100 万人の生活の質を高めるという役割を Starbucks が担うことで、コーヒーを世界一持続可能性に優れた農産物にする
- 世界最大の**グリーン リテール ビジネス** を構築・運営する
- 100 万人の雇用創出に向け**道筋を切り開く**
- あらゆるコミュニティを受け入れ、彼らが抱える問題をよい方向に導く原動力となり、**コミュニティのチカラを高める**

持続可能性に優れたコーヒー 4

グリーンリテール 8

機会の創出 11

コミュニティに対する支援 15

starbucks.com/social-impact

将来に向けた取り組み -
持続可能性に優れたコーヒー

Starbucks では、自社が調達するコーヒーにおける「倫理的に調達されたコーヒー」の割合を 99% にするという 1 つのマイルストーンを既に達成しています。

しかし私たちはさらに先を目指します。引き続きコーヒー栽培農家にご参加いただきながら、最後の 1% を埋めることに取り組んでまいります。たとえば当社の「Starbucks Reserve® Eastern D.R. Congo Lake Kivu」コーヒーでは、コーヒー栽培農家と連携しながら倫理的な調達の取り組みを拡大しています。

当社では、全世界のコーヒー生産コミュニティで Starbucks のコーヒー栽培に従事する 100 万人の栽培農家と作業従事者が、今まで以上の繁栄と、気候変動に強い生産体制を手にする未来を確信しています。そのために Starbucks は、コーヒー生産コミュニティへの投資、コーヒーに関する技術的知識の提供、最先端の手法の考案を実践してまいります。さらに当社では、倫理的な調達を 100% にする取り組みに加え、コーヒーを**世界一持続可能性に優れた農産物にするための活動を、コーヒー事業者各社と連携して展開しています。**

コーヒー栽培農家に対する投資
パートナーとお客様のご協力をいただき、Starbucks ではこれまで 2,500 万本を超える苗木をコーヒー栽培農家に寄付しています。この苗木を寄付する活動は、コーヒーの長期的な供給およびコーヒー栽培農家の経済発展を支援することを目的とした「One Tree for Every Bag」キャンペーンとして、2015 年 9 月に開始されました。本キャンペーンの目的は、寿命が近づきつつある、コーヒーさび病などの病気があるなどの理由で生産性が低下している木を植え替えるためのコーヒーの苗木 2,000 万本分の資金を集めることでした。2016 年末の目標達成を目指していましたが、Starbucks のお客様の多大なご協力をいただき、わずか 1 年ほどで目標を大きく上回る資金を集めることができました。

このキャンペーンの成功を活かすため、Starbucks では現在、目標値を 4 倍に引き上げることを予定しています。具体的には、気候変動の影響を最も受けやすいコーヒー生産コミュニティを購買先とする未焙煎コーヒーの調達活動と組み合わせ、健康なコーヒーの苗木 1 億本を 2025 年までにコーヒー栽培農家に寄付することを目指す予定です。

さらに、木の植え替えを希望するその他の生産コミュニティがプログラムを利用する際に役立つよう、コンサベーション インターナショナルおよび当社の現地パートナーと協力して、コーヒー業界で Starbucks が蓄積してきたさまざまな知識と経験を提供する予定です。

さらに Starbucks では、コーヒー栽培農家に 5,000 万ドルの融資を提供する「グローバル ファーマー ファンド (Global Farmer Fund)」を実施しており、栽培農家はこれらの融資を農学研究、農地再生、インフラ改善に役立てることができます。これは、コーヒーの品質向上、コーヒーの持続可能性強化、さらにはスペシャルティ コーヒー産業の経済的利益に直接的な影響をもたらす取り組みだと考えています。

ほかにも Starbucks ファウンデーションでは、コーヒー生産コミュニティが直面している重要課題の解決を支援するため、現地を熟知するさまざまな機関と連携し、持続可能性を実現するための解決策を模索しています。Starbucks ファウンデーションは 2014 年以来、コーヒー生産コミュニティや茶葉生産コミュニティの小規模コーヒー栽培農家が運営する施設に生産地助成金を拠出しています。この助成金の直接または間接的な受益者は現在 47,000 人にも達していますが、Starbucks ファウンデーションでは 2020 年までにこの数字を 250,000 人に拡大する考えです。

2016 年、コンサベーション インターナショナルの協力のもと、生活基盤としてのコーヒー生産を再度確立するための「ネット ポジティブ モデル」提供を目指す新しいプロジェクトが、メキシコのオアハカで Starbucks の融資により開始されました。かつてオアハカは世界的に重要な高品質スペシャルティ コーヒーの生産地でしたが、気候変動、不便な市場アクセス、貧困、移民といったさまざまな課題により、現在の生産力は大きく落ち込んでいます。こうした状況の中、オアハカの農業コミュニティの生活を安定させ、栽培農家がコーヒー生産を継続できるようにするため、コーヒー栽培農家の日照管理システムを改善する、副収入源を充実させるといった取り組みを、CI が現地パートナーと連携して展開しています。今後は、淡水資源を保護するための水保全に関する講習や、女性、現地農家、現地農家の家族の積極的な参加を促す取り組みを実施する予定です。

コーヒーの技術的知識をシェア

Starbucks は現在、インドネシア、ルワンダ、最近ではメキシコなど、世界の主要なコーヒー生産国で 8 つのファーマー サポート センターを運営しています。さらに、農学をオープンソース化するという Starbucks の方針のもと、こうした地域のコーヒー栽培農家に、病気に強い新品種や最新の土壌管理技術など、Starbucks で最先端の研究を行っている農学者による最新の知見を無料で開放する予定です。栽培農家は従来の栽培手法を活用しながら、これらの継続的なサポートを利用して農産物の品質を向上させ、収穫高を増加させることができます。このことは収益性の向上にもつながるため、将来は誰もが質の高いコーヒーを生産できるようになるはずです。私たちは、このグローバル ネットワークが提供する講習を受講するにコーヒー生産者は 2020 年までに 200,000 人に達すると見込んでいます。

持続可能性 100% のコーヒー実現に取り組む団体を設立

さまざまな企業と機関が協力し解決策を共有できれば、コーヒー業界における最重要課題の解決はさらに加速するはずです。こうした確信のもと Starbucks は、コーヒーを世界一持続可能性に優れた農産物にするための行動を促進するサステナブル・コーヒー・チャレンジ (Sustainable Coffee Challenge) の創設メンバーになりました。コンサベーション インターナショナルを中心に多様なメンバーで構成される同団体は、2015 年の国連気候変動パリ会議で最初に発表され、現在、Starbucks 以外のコーヒー事業者、非政府組織、メキシコ政府、ルワンダ政府など 60 を超えるメンバーが加盟しています。現在同団体では、業界全体への呼びかけを通して、栽培農家、作業従事者、生産コミュニティの繁栄と質の高い生活、安定したコーヒー供給、自然保護を維持するための革新的な解決策の研究を開始しています。Starbucks でも、業界各社との連携が生まれたことによって、100 万本の苗木を提供するという自社の取り組みをさらに拡大することになりました。現在サステナブル・コーヒー・チャレンジでは、コーヒー業界全体で 10 億本の苗木を提供する取り組みが合意に達しつつあります。さらに、スピード感のある植え替えのための共通指針の策定も進んでいます。Starbucks のパートナーもお客様も、ぜひサステナブル・コーヒー・チャレンジの取り組みにご参加ください。最新情報は **sustaincoffee.org** でご確認いただけます。

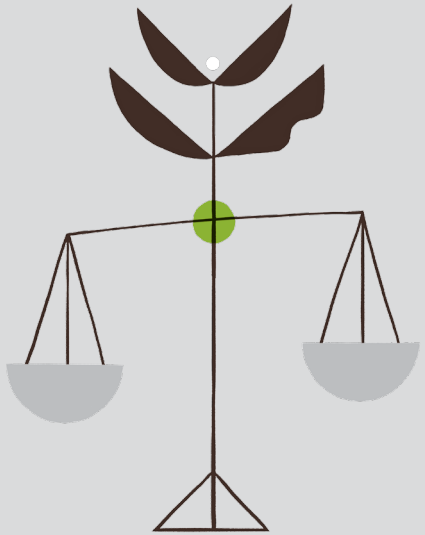
持続可能性の実現に役立てられる社債を初めて発行

2016 年 5 月、Starbucks は米国社債「サステナビリティ ボンド (Sustainability Bond)」を初めて発行いたしました。Starbucks では、5 億ドルに及ぶ調達額の総収益を適切なサステナビリティ プロジェクトに投じることで、コーヒー サプライ チェーン マネジメントを中心とするサステナビリティ プログラムの強化を実現する予定です。

取り組みをコーヒー以外にも拡大

Starbucks では、茶葉とココア豆についても倫理的な調達 100% の実現に取り組んでいます。取り組みの詳しい内容と達成状況については、**starbucks.com/social-impact** にてご覧いただけます。

第四 持続可能性に優れたコーヒー

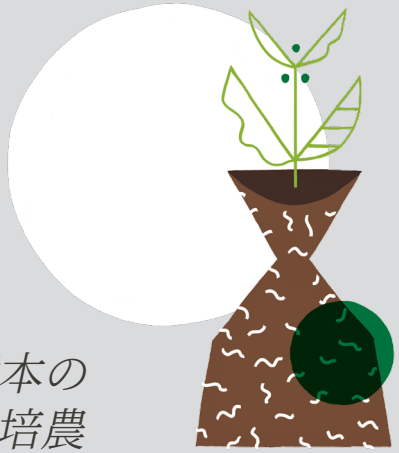


調達に関する取り組み

倫理的に調達されたコーヒーの割合を100%に

STARBUCKS グローバル ファーマー ファンド

2020年までにコーヒー栽培農家に5,000万ドルを融資



コーヒー苗木の植樹

2025年までに1億本のコーヒー苗木を栽培農家に寄付

農学のオープンソース化

2020年までに200,000人のコーヒー栽培農家に講習を実施

STARBUCKS 契約農家の声

「One Tree for Every Bag」キャンペーン

二代にわたるコーヒー栽培農家であり、愛すべき祖母でもある Catalina Pacheco さん。グアテマラの丘陵に広がる、ご自身が経営する農場「La Finca San José」から収穫したコーヒー豆を丁寧に焙煎してくれました。彼らが 25 年以上にわたり経営しているコーヒー農場を案内してくれたのは、彼女の夫である Carlos Lima さんと孫の Kevin さん。農場には、「One Tree for Every Bag」キャンペーンから贈られた、マルセレサ種コーヒーの苗木 5,700 本以上が新たに植えてあります。

先頭で案内する Kevin さんは、コーヒーさび病に強い、1 本のマルセレサ種コーヒーの苗木を覆うようにしゃがみ込み、話をしていた祖父に目を向け、「いつか僕がこの農場の経営者を継ぐよ」と誇らしげに語ります。Carlos Lima さんも新しい苗木に向かって腰を下ろし、優しく微笑みながらつぶやきます。「このプログラムは私たち家族にとって贈り物のような存在です」。Kevin さんの顔に、今日一番の笑顔が広がりました。立ち上がった Kevin さんの案内で家へと戻ると、挽きたてのコーヒーと砂糖、甘いパンを Catalina さんが用意して待っていてくれました。彼らの農場で生まれたコーヒーを味わう私たちを、Catalina さん、Carlos Lima さん、Kevin さんは輝きに満ちた目で見つめています。コーヒーを口に運ぶたびに、代々受け継がれてきた家族の営み、文化、技術に「One Tree for Every Bag」キャンペーンが与えた影響のことを思わずにはいられませんでした。新しいの苗木の 1 つひとつが、彼らの明るい未来を象徴する、次世代への希望のように思えたのです。

「One Tree for Every Bag」は現在までに 2,500 万本のコーヒーの苗木を、メキシコ、グアテマラ、エルサルバドルのコーヒー栽培農家に寄付しています。これらのコーヒー栽培地域では、かつてコーヒーさび病で苗木の 40% が死滅するなど壊滅的な打撃を受け、多くの農家が農場を手放すことを余儀なくされました。しかし「One Tree for Every Bag」キャンペーンが、彼らが何世代にもわたり育ててきた農場に、新たな未来と希望をもたらすことになったのです。

Starbucks は、コンサベーション インターナショナルと協力しながら、次世代のコーヒー栽培農家に新たな希望を生み出しています。

新たな道を切り開く - グリーンリテール

環境問題への先駆的な取り組みを30年間にわたり続けてきたStarbucksでは、地球こそ私たちが最も大切にすべきパートナーであることを常に理解しています。Starbucksは、2020年、さらにそれ以降を見据えた意欲的な目標と共に、グリーン リテールの実現に引き続き取り組んでまいります。

店舗のグリーン化
Starbucks が 20 か国で建設した 1,200 以上の店舗が LEED® (Leadership in Energy and Environmental Design) 認定を取得しています。Starbucks は、このような「グリーン ストア」を業界で最も多く建設している企業であり、全世界の LEED® 認定プロジェクトの 20% を Starbucks の店舗が占めています。環境に配慮したリテール企業を実現する取り組みは、今後さらに加速させていきます。イノベーション、持続可能性、効率性の推進を目的とする、店舗展開計画全体を対象とした店舗検証プログラムを現在策定中です。新規店舗と既存店舗を対象に、建築に関する規格、水道光熱利用の効率性目標、パートナーとの連携の枠組みを評価・策定していくことで、グリーン リテールが実現された店舗を 2025 年までに 10,000 店舗にすることを目標としています。この新しいプログラムを通して当社の規模を活かした社会貢献活動を展開することで、世界で最も環境に配慮したリテール企業になるという目標に私たちは大きく近づくことになります。

環境に配慮したカップの考案
カップのグリーン化では Starbucks はこれまでにかなり大きな進歩を遂げてきましたが、まだ道のりは長いという認識を持っています。Starbucks は、リユーザブル カップをお持ちいただいたお客様への割引適用や、再生繊維 (PCF) を 10% 含有するホット ドリンク用カップなど、さまざまな業界初の取り組みを実現してきただけでなく、サイクルを推進する基盤づくりの提唱者として業界を牽引しています。現在カップのリサイクルは数多くの地域で実現していますが、Starbucks は現地政府やステークホルダーの協力を得ながら引き続きリサイクル意識の向上に取り組み、Starbucks 直営店舗のすべてでリサイクル率をさらに高めていく考えです。私たちは 2022 年に向け、1) ホット ドリンク用カップにおけるリサイクル素材の含有量を倍増させ、コールド ドリンク用カップの代替素材を模索する。2) リサイクル活動に引き続き注力し、カップのリサイクルに取り組む店舗および地域の数を倍増させる。3) 購入後の店舗利用やリユーザブル カップの利用を促進し、そのためのインセンティブを提供する。という 3 つの目標を掲げ、カップのグリーン化をさらに進めていきます。

グリーン エネルギーへの投資
2005 年以来 Starbucks は再生可能エネルギーへの投資を続けています。その取り組みが昨年 1 つのマイルストーンを迎えました。米国とカナダのグリーン電力証書 (REC) とヨーロッパのグリーン電力供給契約を主に利用することで、Starbucks が購入した再生可能エネルギーの量が、全世界の Starbucks 直営店舗の消費電力すべてに相当する電力量に達したのです。また Starbucks は、EPA の「Green Power Partnership National Top 100」リストにおいて、再生可能エネルギーの購入先として業界 1 位にランクされています。昨年は、再生可能エネルギーの利用促進を目的にクライメイト グループ (The Climate Group) が主宰する、世界最大級の企業や機関が参加する団体 RE100 にも加盟しました。今後は、さまざまな土地に適した再生可能エネルギーの新たな購入方法を模索すると共に、Starbucks が事業を展開する世界中の国々の電力網に、新しい再生可能エネルギー プロジェクトを提案することに取り組んでいきます。

パートナーの環境意識向上
Starbucks では、持続可能性に対するパートナー (従業員) の意識を向上し、パートナー自身から働きかけや情報発信が生まれるような環境作りを目指しています。2016 年には、リテール パートナーとリテール以外のパートナーを対象とした自主参加型の認定プログラムを試験導入しました。この「Greener Apron™」プログラムは、アリゾナ州立大学 (ASU) スクール・オブ・サスティナビリティと Starbucks が共同開発した 3 つの短い学習モジュールを使い、環境の持続可能性について学習できるプログラムです。試験導入時に 1,100 人以上のパートナーを集めたこのプログラムは、2017 年春にはさらに拡張され、米国、カナダ、英国、オランダのパートナーに対応する予定です。目標は、プログラムの参加パートナーを 2020 年までに 10,000 人に増やし、持続可能性の提唱者となるパートナーのネットワークを構築することです。

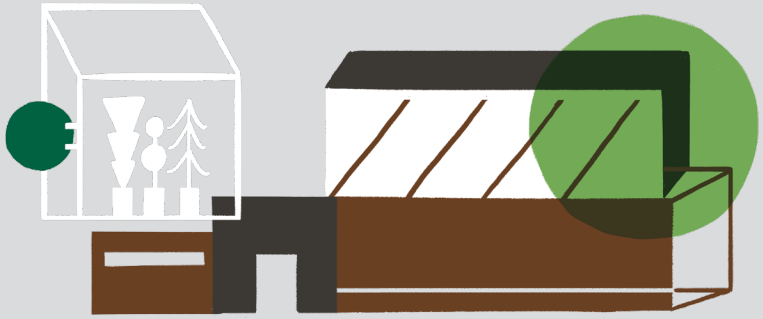
グリーンリテール

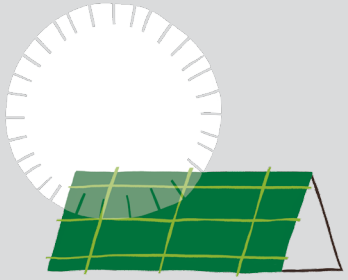
店舗のグリーン化

2025年までに10,000店舗のグリーンリテール店舗を建設・運営

カップのグリーン化

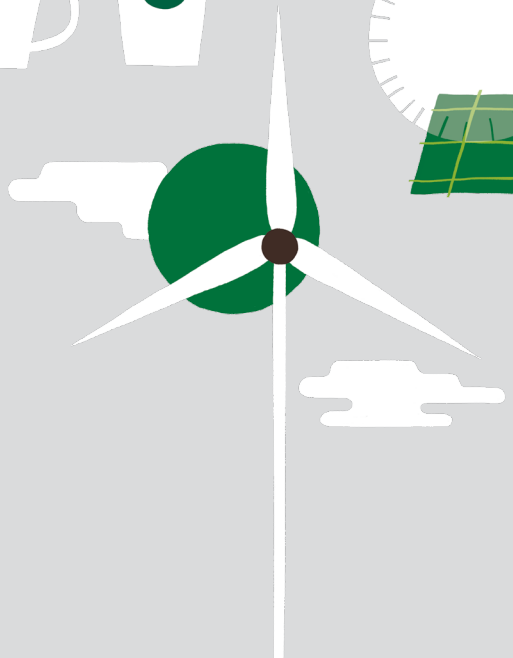
カップにおけるリサイクル素材の含有量、カップのリサイクル率・再利用率を2022年までに倍増





エプロンのグリーン化

2020年までにパートナー10,000人を持続可能性の提唱者に



電力のグリーン化

2020年までに全世界の事業用電力の100%を再生可能エネルギーで購入

STARBUCKS パートナーの声

業務のグリーン化に取り組む

Tawny Villain さんは、3 つの州で 10 年間にわたり Starbucks パートナーを続けて来ました。現在はテキサス州オースティンで勤務。一年中太陽が照りつけるここオースティンは、持続可能性の実現に取り組み、持続可能性について学ぶという彼女の願いを叶えるのにぴったりの場所です。Tawny さんは興味のおもむくままさまざまなことにチャレンジしてきましたが、常に意識していたことは、人類の営みが生活環境に与える影響と、すべての人々が自らの役割に気付くことの大切さです。そんな Tawny さんは、Starbucks とアリゾナ州立大学 (ASU) が連携して実施している「Greener Apron™」プログラムを通して持続可能性についてさらに学びを深め、このプログラムで得た知識や経験を同僚やお客様に伝えています。

また、ASU の「Starbucks カレッジ アチーブメント プラン (SCAP)」にも数多くのパートナーと共に参加し、持続可能性に関する学位の取得に励んでいます。この学位は、卒業要件として現場でのインターンシップを学生に求める SCAP でも唯一の学位です。Starbucks の Global Social Impact and Public Policy 部門は、この厳しい大学ならではのプログラムに共感。同部門の提案により、この単位を履修する学生向けの奨学金プログラム「Sustainability Fellowship」が試験的に実施されることになりました。

Tawny さんは、その他 2 人のパートナーと共に、Starbucks の Sustainability 部門へのリモート勤務によりインターンシップの要件を修了。Tawny さんが取り組んだのは、オースティンの廃棄物処理の現状をマッピング・調査するというテーマでした。この研究成果は Starbucks の事例として活用され、廃棄物管理の改善に役立てられる予定です。

「Starbucks の奨学金制度と ASU の持続可能性プログラムは、持続可能性に対する私の意識を高め、持続可能性を実現することの意味を教えてくれました。シアトルの Starbucks サポート センターを訪れ、まず最初にチームが取り組んでいるプロジェクトを見せてもらいましたが、まさに私が考え続けていたことが展開されていました。あれはすばらしい体験でした。以来、パートナーであることをますます誇りに思っています。バリスタの経験に加えてプロフェッショナルとしての経験を積むことができたことに、本当に感謝しています」。

機会の創出

夢を叶えるためのサポートを

最も優秀な人材が集まる企業の 1 つである Starbucks では、事業を展開する地域のパートナーとお客様に機会を開くことに取り組み続けており、これからも常に取り組んでいきます。

前途ある若年層の雇用を促進

Starbucks は、仕事や教育から隔絶されてしまっている 16 ～ 24 歳の若年層を数多く受け入れ雇用することで、彼らと共に未来を切り開きながら、彼らの夢の実現を支援しています。2015 年には Starbucks の主導で、さまざまな大手企業が参加する共同イニシアチブ「100,000 Opportunities Initiative」が設立されました。米国を代表する企業が加盟する「100,000 Opportunities Initiative」の目的は、若年層と雇用側との有意義なマッチングのための道筋を作成すること。同イニシアチブでは、100,000 人の「オポチュニティ ユース (有望な若者たち)」の雇用実現という目標を、予定より 2 年も早く達成しています。

Starbucks でも 2020 年までに 100,000 人のオポチュニティ ユースを雇用するという目標に独自に取り組んでおり、イニシアチブ全体では、2021 年また、オポチュニティ ユースの雇用、維持、育成に特化した採用と人材管理の実践手法の共有も進められています。までに 100 万人分の雇用を創出するという目標で業界横断的な調整が進められています。

Starbucks は米国における低所得地域または中所得地域への店舗出店を進めており、店舗にはトレーニング センターを併設し、地域の非営利団体と連携しながら若年層への業務スキル訓練を提供しています。私たちは、若年層のニーズを満たし、彼らの可能性が最大限に発揮されるような訓練や支援を全世界で提供しています。

退役軍人と軍人配偶者を雇用

退役軍人と軍人配偶者を雇用し、彼らに協力してもらうことは、その統率力、経験、奉仕精神が活かされるという点で、私たちすべてに大きなメリットがあります。2013 年 Starbucks は、2018 年までに少なくとも 10,000 人の退役軍人と軍人配偶者を雇用することをお約束し、2017 年 3 月、この目標を 18 か月前倒しで達成したことを発表し、2025 年までに 25,000 人の雇用へと目標を上方修正いたしました。さらに、彼らに対する取り組みを雇用以外にも拡大しています。たとえば、現在米国軍に所属しているパートナーや退役軍人のパートナーは、自分のカレッジ アチーブメント プランの給付金資格を配偶者や子供に拡大することができます。さらに現在は、Starbucks に勤務する退役軍人や軍人配偶者のコミュニティが交流できる場の整備を進めています。彼らの相互交流を実現し、ボランティアの機会を創出し、彼らが経験で得た統率力を発揮してもらうことは、Starbucks はもちろん、世界全体にとっても大きな意味があると考えています。

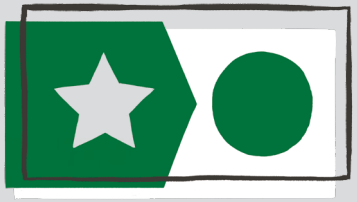
難民の受け入れ

難民とは、想像を絶するほどの困難な状況にあって、生活を再建し、新たな一歩を踏み出すきっかけを求めている人々にほかなりません。Starbucks には、あらゆる人々に機会を創出し、投資し、Starbucks が出店する地域と彼らを結びつけてきた長い歴史があり、そのための取り組みをさらに続けていきます。Starbucks は今後 5 年間で 10,000 人の難民を迎え、雇用する取り組みを世界規模で展開していきます。彼らの才能、経験、強い精神力を、Starbucks が事業を展開する全世界の地域で発揮していただきたいと考えています。米国における難民採用は、通訳など米軍を支える役割を果たした人材とその家族が最初の対象者になる予定です。

STARBUCKS カレッジ アチーブメント プランを拡張

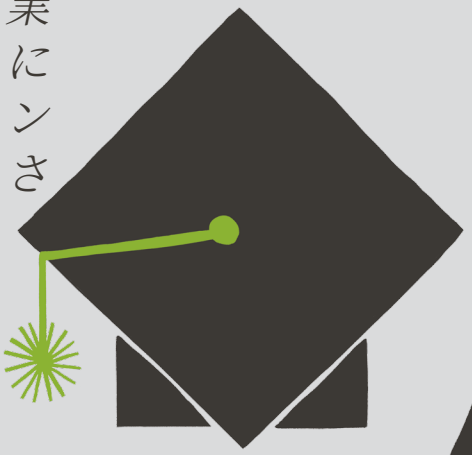
2016 年末時点で、227 人の卒業生を含む 6,000 人以上のパートナーが Starbucks カレッジ アチーブメント プランに参加しています。さらに 2017 年 3 月には、学業の成績に応じて授業料免除での入学資格が得られる「Pathways to Admission」プログラムが発表されました。

機会の創出



STARBUCKS カレッジ アチーブメント プラン

パートナーの卒業者を2025年までに25,000人に。プランの対象者と内容もさらに拡大・充実



退役軍人と軍人配偶者

2025年までに25,000人の退役軍人と軍人配偶者を迎え、雇用

難民

2022年までに全世界で10,000人の難民を迎え、雇用

オポチュニティ ユース

2020年までに100,000人の若年層を迎え、雇用

STARBUCKS パートナーの声

STARBUCKSが広げた学業のチャンス

Hagar Johnson さんが Starbucks で働くことに決めたのは、サポートが充実した仕事環境、給与面での安定性だけではありません。大学教育を受けられるシステムの存在も大きな理由の1つでした。

エングルウッドの店舗でシフト スーパーバイザーを務める Johnson さんは次のように語ります。「シカゴで開催された「Opportunity Fair and Forum」に参加したのですが、従業員の授業料を負担してくれるカレッジ アチーブメント プランがあるという Starbucks の話しに夢中で飛びつきました。その場で採用が決定した私は、これでやっと学位を取れるというううれしさでいっぱいでした」。

Johnson さんは以前はジョージア・サザン大学に通っていましたが、健康上の問題から中退を余儀なくされていました。Starbucks に採用された彼女はさっそくカレッジ アチーブメント プランに応募しましたが、残念ながら成績が要件に達していませんでした。

カレッジ アチーブメント プランは、要件を満たす米国のパートナーが、アリゾナ州立大学 (ASU) のオンライン授業を使って学費完全免除で学士号を取得できるプログラムです。一方、Johnson さんのように、学位取得を希望するもののカレッジ アチーブメント プランの参加資格を満たせていない Starbucks パートナーは 15,000 人ほど存在します。こうしたパートナーの目標達成を支援するため、Starbucks と ASU は 2017 年 3 月、学業の成績に応じて学費免除で入学資格が得られる「Pathways to Admission」プログラムを発表しました。

「Pathways to Education」のおかげで、Johnson さんには ASU 入学の道が開かれようとしています。

「誰もが大学にストレートに進めるわけではありません。スキルを伸ばし、勉強を続けたいという意思があっても、何らかの障害や挫折があってそれを諦めざるを得ない人も数多く存在します。でも私は、経営者でも医師でも、なりたいものに何でもなることができます。Starbucks が十分すぎるほどの支援をしてくれたおかげです」。

STARBUCKS COLLEGE ACHIEVEMENT PLAN | ASU Arizona State University

STARBUCKS パートナーの声

実習という学び

Starbucks パートナーの多くを占める 24 歳以下の若年層は、正規雇用と非正規雇用とを問わず就職に最も苦戦している世代です。Starbucks では、訓練と雇用のためのイニシアチブを通して、こうした若年層の就労準備と雇用確保を支援しています。

英国で 2012 年に立ち上げられた「Starbucks アプレンティスシップ (実習)」プログラムは、リテール管理の業務を習得することに加え、一人ひとり異なる目標に応用可能なスキルを蓄積できる、若年層向けのプログラムです。2016 年 3 月にはこのプログラムの対象職種が広がり、デジタル、法律、経営などの業務を実習できるようになりました。Starbucks ではこの改革と同時に、英国の店舗における実習に加えて、英国の Starbucks サポート センターでもプロフェッショナルサービスの実習を開始しました。

現在 18 歳の Zain Bedar さんが「Starbucks アプレンティスシップ」プログラムの存在を知ったのは、今年初頭にロンドンで開催された就職説明会でのことでした。現在彼は、2 年間にわたる財務アナリスト レベル 4 実習の 9 か月目を順調に受講しています。

彼は語ります。「この実習プログラムを通して、現場で学習しながら、プロフェッショナルな環境で実務経験と実践的なスキルを身に付けることができました。私は、大学に進まず職業訓練の実習を積むという決断が間違いではなかったと満足していますし、キャリアの選択肢が広がったことにとてもワクワクしています」。

現在も給与を得ている Zain さんですが、Starbucks での訓練終了時には勅許管理会計士 (CIMA) の資格を取得する予定です。

コミュニティに対する支援
ローカルな信頼関係をグローバルに築く

Starbucks のすべての店舗は地域社会の一員です。私たちは事業を展開するあらゆる場所で、地域との信頼関係強化に取り組んでいます。

販売されなかった食品を寄付
現在、Starbucks のミッションと価値観の実践に取り組む全米のパートナーが、販売されなかった食品を Starbucks が属する地域社会に寄付する活動を、食料問題解決の一助とすべく推進しています。また Starbucks は、フィーディング アメリカとの連携により新しい独自の取り組みを立ち上げ、米国の直営店舗における寄付可能な食品の回収率 100% を 2020 年までに達成し、業界における「フードレスキュー」を先駆者として普及させていく考えです。

フィーディング アメリカの協力を得たことで、飢餓救済・フードレスキューの米国最大のネットワークを活用できることになります。このネットワークを活用し、食料不安に苦しめられている家族や個人に、販売されなかった食品を再分配していきます。2017 年 3 月までに Starbucks は 100 万食の食品を寄付していますが、プログラムの全米への展開が完了すれば、寄付の量は飛躍的に拡大し、年間 5,000 万食に達すると試算しています。

さらに Starbucks では、米国における食料寄付の仕組みを確立するため、回収された食品を安全に運搬するための冷凍・冷蔵車の購入など、フード バンクによるプログラムのインフラ投資への経済的支援を行っています。

この「FoodShare」プログラムでは、食品を寄付するだけでなく、奉仕作業として Starbucks パートナーの勤務時間を寄付するなど、地域のフード バンクとパートナーの連携も生まれています。さらにフィーディング アメリカとの連携では、フード バンク ネットワークへの投資に加え、全米および地域レベルでの飢餓救済プログラムに関するアドボカシー活動にも Starbucks の支援が行われています。「FoodShare」プログラムは、食料の寄付、地域奉仕活動、財政投資、アドボカシー活動という全方位的な政策を展開し、飢餓の撲滅に取り組んでいます。

地域奉仕活動
Starbucks では、私たちには所属する地域社会にポジティブな影響を与えるチカラがあると信じており、またそうするべきだと確信しています。地域奉仕活動は、Starbucks のミッションと価値観、Starbucks という企業全体の方針に基づく活動であり、Starbucks が事業を展開する地域のニーズに個人または集団で応える、最も重要な手段の 1 つでもあります。

Starbucks では 2011 年 4 月、Starbucks の設立 40 周年を記念して、パートナーが 1 か月にわたり社会奉仕活動に従事する「グローバル サービス月間」プログラムを立ち上げました。それぞれの地域コミュニティの活動に参加したパートナーの数は、2016 年 4 月だけでも 50,000 人を超えています。2017 年 Starbucks は、地域奉仕活動を毎年実施する Starbucks® の店舗を全世界で 100% にするという地域奉仕活動の新たな目標をここに発表し、その実現に年間を通して取り組んでいきます。世界中の店舗による地域奉仕活動への取り組みを通して、持続可能性、飢餓撲滅、若年層雇用、退役軍人、難民など、Starbucks 全体の社会貢献の取り組みに関連した活動へのパートナーの積極的な参加が促されることを期待しています。

STARBUCKS ファウンデーション
Starbucks ファウンデーションでは、Starbucks の社会貢献方針と関連性の高い分野について、次のような取り組みにより全世界の地域社会に支援を提供しています。

「Opportunity for Youth」
プログラム 2016 年には、10 か国で 63 のパートナーシップが確立され、業務スキルやリーダーシップ スキルの育成、雇用のマッチングなどで 20,000 人以上の若年層に直接的な支援が提供されました。

コーヒー、茶葉、ココア生産に従事するコミュニティの支援
*コミュニティの支援*支援活動の対象は、店舗が属するコミュニティを越えて、コーヒー、茶葉、ココアを Starbucks に供給する地域にも広がっています。Starbucks ファウンデーションでは、こうした地域の経済的・社会的発展を支援する各種プログラムに資金を投入しており、豊富な経験と知識を持つさまざまな非政府組織の協力を得ながら、コーヒーその他の農作物を生産している国々の農業コミュニティとの連携に取り組んでいます。たとえば、教育や農業訓練をより簡単に受けられるようにする、マイクロファイナンスやマイクロクレジット制度を整備する、生物多様性の保全をさらに強化する、健康、栄養状態、水衛生のレベルを向上するといった活動が進められています。

コミュニティに対する支援

ダイバーシティとインクルージョン

Starbucks のビジネスが成功するために何よりも欠かせないのは、異なる経験、立場、背景を持つ人々が協力し合いながら一緒に働くことで生まれるイノベーションです。このような環境作りをさらに推進するため、Starbucks では社内の主要部門の責任者をメンバーとする「Starbucks Inclusion Council」を設立、Starbucks におけるインクルージョンとダイバーシティ実現の戦略的ビジョン策定を進めています。このビジョンの中で、歴史的に不当な評価を与えられてきた人々のために、採用でもサプライチェーンの面でも機会を創出するという取り組みを進めていきます。たとえば、すべてのパートナーが自分の仕事の公正な対価を得るという同一賃金を徹底し、また、パートナーやお客様におけるダイバーシティの実践を証明する説明責任を、Starbucks の経営陣に課していきます。新しい市場の開拓、既存市場の拡大、全社的なイノベーションの継続と推進など、Starbucks のあらゆる事業活動において、ダイバーシティとインクルージョンの実現は絶対的な義務として位置付けられます。

インクルーシブな職場

Starbucks の事業において何よりも優先されるのが、優秀なパートナーを雇用し、育成し、維持することです。そのためには、敬意と尊厳に基づいてお互いを認め合うこと、そこにいる誰もが温かく歓迎される帰属意識の文化を創出することが必要であり、Starbucks ではこの 2 つを最も大切な価値観だと考えています。Starbucks に迎えることができたパートナーが、常にありのままの自分自身で、最高の仕事を遂行すること。これが Starbucks が考える成功です。Starbucks にはパートナー ネットワークが 9 つありますが、ダイバーシティの実現はそれらすべてのネットワークの重点項目であり、人材の構成にもパートナーの多様な背景が反映されています。あらゆるレベルのパートナーが上級管理者に連絡・相談でき、上級管理職に昇進するチャンスも全員に与えられています。

さらに Starbucks では、医療、育児休暇、ストック オプション、授業料免除で学士号を取得できる制度など、正規雇用および非正規雇用のパートナーに向けた包括的な福利厚生を提供し、パートナーのキャリア開発と個人の目標達成を支援しています。私たちは、地域社会と信頼関係を構築し、非営利団体、市民リーダー、さまざまな専門家団体と地域レベル・国家レベルで連携することで、Starbucks が提供する機会と多様な人材とをしっかりと結びつけることに取り組んでいます。

Starbucks の取締役会は現在、米国で最もダイバーシティが実現されている取締役会の 1 つとなっています。2016 年末時点で、米国の Starbucks パートナーの約 43% がマイノリティで、66% が女性でした。米国のバイス プレジデントの 19% がマイノリティで、48% が女性でした。米国 Starbucks の 60 人の最高幹部（上級バイス プレジデント以上）のうち、マイノリティは 18%、女性は 32% を占めていました。

私たちはダイバーシティの推進に引き続き取り組んでまいります。このため、Starbucks の最高幹部における女性とマイノリティの比率の達成目標をさらに引き上げ、ダイバーシティに対する取り組みの進捗を評価し続けています。さらに、Starbucks の成功をさらに後押ししてくれる人材を確保するため、経歴に関わらず引き続きあらゆる採用候補者とパートナーに働きかけ、彼らを迎え入れていく考えです。

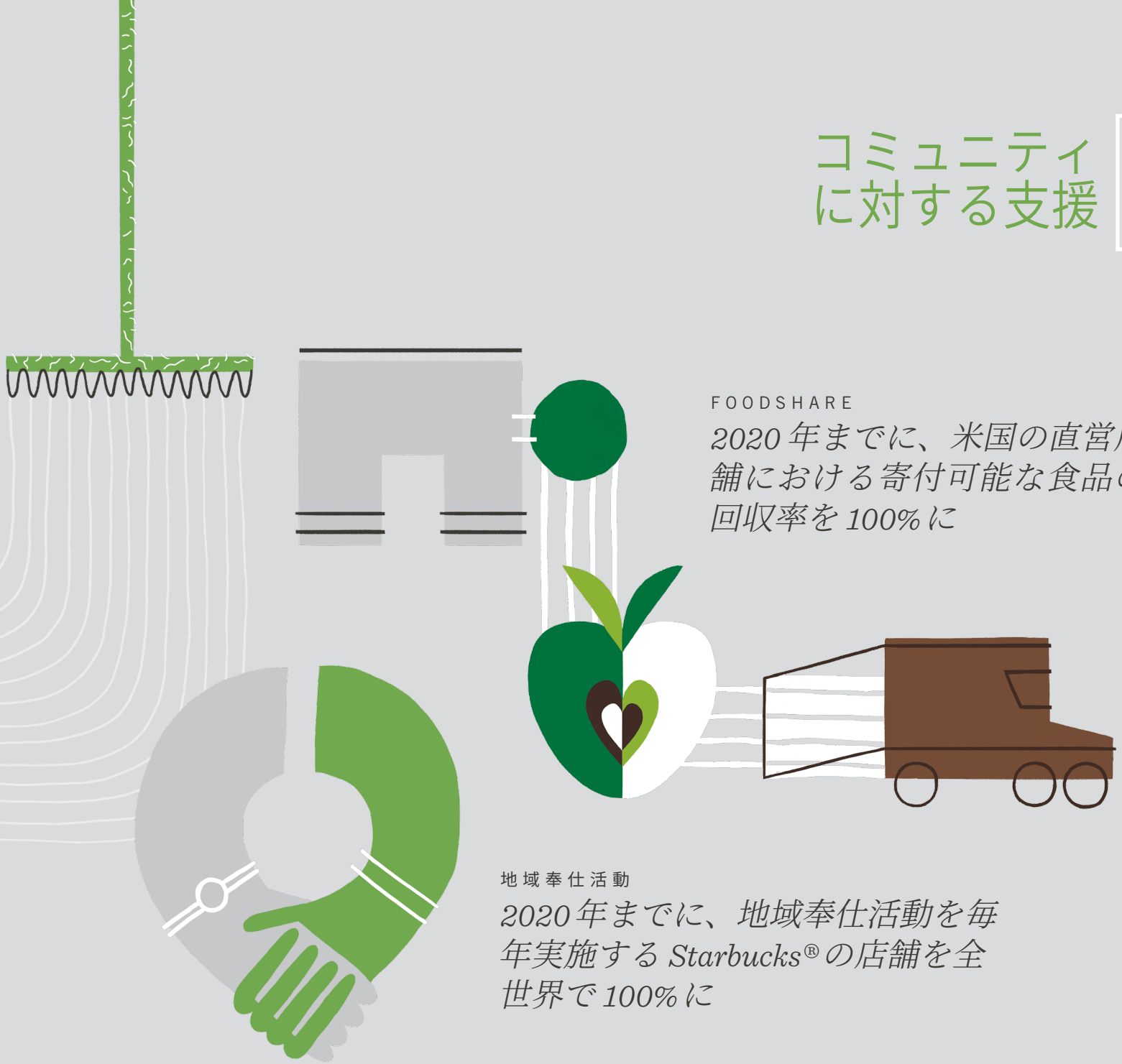
サプライ チェーンのダイバーシティ

「Starbucks サプライヤー ダイバーシティ」プログラムは、サプライチェーンの強化だけでなく、物品の倫理的な調達という Starbucks の重要課題を推進するにあたり中核的な役割を果たしています。このプログラムでは、所有者・運営者に占めるマイノリティ、女性、LGBT、退役軍人、障碍者の割合が少なくとも 51% に達している企業とのビジネス リレーションシップ構築を目指しています。ダイバーシティが実現されているサプライヤーとのつながりを積極的に模索することは、Starbucks の事業の推進という意味があるのはもちろん、私たちが事業を展開する地域社会への投資という側面もあります。こうした取り組みにより、高品質でイノベーティブな製品とサービスを見きわめ、あらゆるビジネス チャネルから提供できるようになるだけでなく、付加価値を高め、経済的に発展していくことが可能になります。

Starbucks では、ダイバーシティが実現されているサプライヤーへの支出額を 2000 年に初めて発表しました。当時合計 3,800 万ドルだった支出額は、「Starbucks サプライヤー ダイバーシティ」プログラムの効果により毎年 7,000 万ドル規模に成長しています。この数字は、米国とカナダにおける総支出額の約 10% に相当します。私たちは現在、前年比成長目標を設定しながら、ダイバーシティを実践するサプライヤーへの支出額の割合を、最終的に 15% にまで引き上げることを目指しています。

Starbucks では、こうしたプログラムや目標を戦略的な調達の仕組みの基礎として位置付け、サプライヤーのダイバーシティ実現に総合的に取り組んでいます。私たちは、Starbucks 全体のサプライ チェーンに関する目標として調達目標額を設定することにとどまらず、Starbucks の調達部門を通して、ダイバーシティ推進に取り組むサプライヤーを積極的に支援しています。たとえば、単に有望なサプライヤーを模索するだけでなく、Starbucks の基準を満たすサプライヤーには、ダイバーシティに関する指導や育成の積極的なサポートを提供しています。

コミュニティに対する支援



FOODSHARE

2020年までに、米国の直営店舗における寄付可能な食品の回収率を100%に

地域奉仕活動

2020年までに、地域奉仕活動を毎年実施するStarbucks®の店舗を全世界で100%に

STARBUCKS パートナーの声

飢餓のない地域社会を実現するために

Esther Ortega-Johnson さんは 7 歳の頃、週末になると朝早く起き、底冷えのする中温かい衣服を身にまとい、家族と一緒にロサンゼルスのダウンタウンへと足を運んでいました。このお出かけには特別な目的がありました。食べるものがないすべての路上生活者に、温かい食事を提供するのです。

現在、米国海軍に勤務する夫と共にテキサス州サンアントニオに住み、Starbucks のストア マネージャーを務めている Ortega-Johnson さんは、次のように語ります。「私の父は、親戚を集めてタコスやホット チョコレートを作り、食べるものがなく困っているすべての人にそれらを配っていました。それは、私がホームレスと飢餓の問題に直面した、初めての体験でした」。

その後 Ortega-Johnson さん家族の取り組みはまたたく間に知れわたり、家族や友人が続々と参加することになりました。

彼女は語ります。「専門の団体のために仕事をしていたわけではありません。困っている人を助けていただけです。私と妹を育ててくれた両親は常に言っていました。"他者に与えることができるときにそれをしないのは、自分の責任を果たしていないということなんだ"と」。

この幼少時の体験は Ortega-Johnson さんに大きな影響を与えました。現在 Ortega-Johnson さんは、サンアントニオとヒューストンにおける Starbucks の「FoodShare」プログラム拡大に、パートナーの 1 人として取り組んでいます。

Starbucks では、フィーディング アメリカとの戦略的連携に基づき、米国の直営店舗 7,000 店以上における寄付可能な食品の回収率 100% を達成するという目標達成に取り組んでいます。プログラムの全米への展開が完了すれば、直営店舗のスタッフが配布する栄養価の高い食品は、年間で 5,000 万食に達すると試算しています。

STARBUCKS パートナーの声

奉仕活動を通した社会還元

Starbucks パートナーは、長年にわたり社会貢献活動を通してそれぞれの地域社会に奉仕してきました。北京の Starbucks パートナーも、9 年間にわたり「Cinema for the Blind」という活動を支援しています。これは、目の見えない人にも国内・海外の映画をもっと楽しんでもらうため、ボランティアがスクリーンの映像を詳しく解説するという慈善活動です。

パートナーとして 11 年の経験を持ち、Starbucks のミッションと価値観を日々実践している Zheng Tao さんもこの活動に参加しています。彼の心は、Starbucks 中国北部地域のコーヒー マスター認定を獲得しても満たされることがありませんでした。周りに存在する恵まれない人々に支援の手を差し伸べるにはどうすればよいか、焦りにも似た感情を常に抱えていたのです。6 年間にわたるボランティア活動で彼が解説した映画は 40 本以上、奉仕した時間は合計で 9,000 時間にも達します。

Tao さんは当時を振り返り、次のように語っています。「Starbucks が北京の "Cinema for the Blind" 活動を支援するという話しはスーパーバイザーから聞いたのですが、聞いたその場で申し込んでいました。目の見えない人の代わりに私が目の役割を担うことで、彼らが自分と同じように映画を楽しむことができる。これはすばらしいことです」。

Zheng Tao さんは 2016 年 9 月、北京の「Cinema for the Blind」における貢献と熱意が認められ、中国で最も影響力のあるビジネス リーダー、起業家、科学技術者と共に、中国のトップ 50 イノベーターに選出されました。これは、イノベーションを追求する姿勢と意欲を奨励し評価することを目的に、中国の大手ビジネス誌「第一財経週刊」が年 1 回開催しているランキングです。ビジネス、ブランド、テクノロジ、デザインといった分野で中国を牽引するリーダーにとって、最も権威あるランキングの 1 つです。

目標 *概要*

対象領域	目標	2016年度	達成状況（2017年4月時点）
調達に関する取り組み	*倫理的に調達されたコーヒーの割合を100%に*	**99%**	倫理的に調達されたコーヒーの割合を 99% に
コーヒー苗木の植樹	*2025年までに1億本のコーヒー苗木を栽培農家に寄付*	**900万本**	「One Tree for Every Bag」キャンペーンの取り組みにより、寄付された苗木は 2,500 万本に到達
グローバル ファーマー ファンド	*2020年までにコーヒー栽培農家に5,000万ドルを融資*	**2,130万ドル**	農家向け融資に 2,130 万ドルを確約または投資済み
農学のオープンソース化	*2020年までに200,000人のコーヒー栽培農家に講習を実施*	**新しい目標**	運営する 8 つのファーマー サポート センターで栽培農家への講習を実施。成果の報告は 2017 年のレポートから開始予定
カップのグリーン化	*カップにおけるリサイクル素材の含有量、カップのリサイクル率・再利用率を2022年までに倍増*	**新しい目標**	再生繊維 (PCF) を 10% 含有するカップを使用。米国の直営店舗の 50% 以上で店頭でのリサイクルを実施。ドリンク全体の 1.4% はリユーザブル カップで販売
店舗のグリーン化	*2025年までに10,000店舗のグリーン リテール店舗を建設・運営*	**1,000店**	20 か国で建設した 1,200 以上の店舗が LEED® 認定を取得
電力のグリーン化	*2020年までに全世界の事業用電力の100%を再生可能エネルギーで購入*	**新しい目標**	全世界の Starbucks 直営店舗の消費電力すべてに相当する電力量をグリーン電力証書 (REC) で購入。2017 年 4 月、ノースカロライナ州ロブソン郡の 260 エーカーの土地に太陽光発電を設置する投資を発表
エプロンのグリーン化	*2020年までにパートナー10,000人を持続可能性の提唱者に*	**1,120人**	「Greener Apron™」プログラムの正式運用を 4 つの市場で開始
退役軍人と軍人配偶者	*2025年までに25,000人の退役軍人と軍人配偶者を迎え、雇用*	**7,745人**	10,000 人という当初の目標は 2017 年 3 月に達成。目標値を 25,000 人に上方修正
STARBUCKS カレッジ アチーブメント プラン	*パートナーの卒業者を2025年までに25,000人に。プランの対象者と内容もさらに拡大・充実*	**227人**	現在までに 400 人のパートナーが卒業。6,500 人以上のパートナーが現在 ASU のオンライン学位取得プログラムに参加中
オポチュニティ ユース	*2020年までに100,000人の若年層を迎え、雇用*	**32,096人**	オポチュニティ ユース 10,000 人の雇用という 2015 年に設定した目標を最初の 1 年で達成。2020 年までの目標値を 100,000 人に上方修正
難民	*2022年までに全世界で10,000人の難民を迎え、雇用*	**新しい目標**	Starbucks が事業を展開する 75 か国で 10,000 人の難民を採用する計画を 2017 年 1 月に発表。進捗状況は 2017 年のレポートで報告予定
FOODSHARE	*2020年までに、米国の直営店舗における寄付可能な食品の回収率を100%に*	**新しい目標**	2016 年に「FoodShare」プログラムの実施を発表し、展開を開始。現在までに 100 万食以上を寄付
地域奉仕活動	*2020年までに、地域奉仕活動を毎年実施するStarbucks®の店舗を全世界で100%に*	**新しい目標**	ベースラインとなる店舗数を 25,000 店に設定、引き続き進捗状況を注視していく予定

コンサベーション インターナショナル

「コーヒー栽培地域の農家に健康な苗木を提供することで、現在の土地の生産力を高め、森林破壊を防ぐことができます。健康で彩りのある暮らしを全世界の人々に提供し、恵みある豊かな自然を守るため、Starbucks と共に協力しながら長期的な取り組みを実践できることを誇りに思います」

M. Sanjayan 博士
エグゼクティブ バイス プレジデント兼シニア サイエンティスト

クライメイト グループ

「Starbucks を始めとする RE100 の加盟メンバーが目指しているのは、単に目標値を達成することではありません。彼らの目標は、電力購入の枠組みそのものを刷新することです。Starbucks による太陽光発電インフラへの投資と、革新的なグリーン電力料金は、再生可能電力における非常に示唆に富んだビジネスケースです。さまざまな企業と機関を巻き込んだ彼らの強力でイノベーティブな取り組みは、Starbucks が気候変動の防止に真剣に取り組んでいることを数百万の顧客に示す、米国のあらゆる企業と公共事業体が参考にすべき格好のサンプルです」

Sam Kimmins 氏
RE100 リーダー

ユダヤ人救出委員会

「5 年間で 10,000 人の難民を雇用するという Starbucks の力強くそして大きな影響をもたらすであろう取り組みに協力できることに、身が引き締まる思いです。雇用を通して地域社会に溶けこむことは、難民が新しいコミュニティに適応する最も有効な手段の 1 つです。待望されていた雇用創出を Starbucks が約束してくれたことは、当団体の利用者の自給自足実現に向けた、重要なファースト ステップです」

David Miliband 氏
プレジデント兼 CEO

フィーディング アメリカ

「Starbucks とパートナーシップを確立したことは、私たちのフード レスキューの取り組みにおいて非常に大きな分岐点となりました。以来私たちは、食料調達のための革新的な解決策を模索し続けています。"FoodShare" を始めとするさまざまな活動が生まれたことも、私たちが正しい方向に進んでいることの表れだと思います」

Diana Aviv 氏
CEO

このレポートについて

範囲

2016 会計年度のレポートでは、倫理的な調達、コミュニティへの投資、環境に関する責任という 3 つの主要分野について設定された目標に対し、当社がどのようなパフォーマンスを見せているのかに焦点を合わせます。こうした取り組みは当社の事業に直接結び付くものなので、当社の財務、コーポレート ガバナンス、職場と多様性のポリシー、およびパフォーマンスに関して starbucks.com で公開されている情報や資料へのリンクも含まれています。このレポートを作成するにあたって、当社では、My Starbucks Idea などの簡単にアクセスできるお客様および Starbucks パートナー ツール、Starbucks のソーシャル メディア チャネル (Starbucks と Starbucks のパートナーの Facebook、Twitter、Instagram) および当社のカスタマー サービス チームを介して、賛同者や投資家との 1 年を通じての関わり、およびこうした人々からのフィードバックに基づき、Starbucks と当社のステークホルダーにとって重要なトピックと問題をカバーしました。こうした取り組みは、戦略的顧問会社の SustainAbility と PR 会社の Edelman が実施した業界およびトレンド分析や、当社と協力関係にある数多くの組織との直接的な対話により補完されます。プログラム、ポリシー、およびこのレポートのコンテンツが、当社の事業やステークホルダーにとって意味を持つものとなるように、社内と社外の両方の関与が当社の経営方針の重要な要素となることを徹底します。

境界

これまでのグローバル責任レポートと同様に、今年のレポートでも、倫理的な調達、コミュニティーへの投資、環境に関する責任の分野で、私たちが行っていることに重点を置きました。これらの分野は私たちの事業にとって非常に重要であり、私たちが最も大きな影響を与えることができ、実際に与えている分野であることもわかっています。ステークホルダーの関与の取り組みに基づき、これらの分野が、お客様、パートナー、非政府組織 (NGO)、投資家にとって重要であることも確信しています。さらに、健康とウェルネスおよび職場のポリシーに関する問題は、当社の事業の重要な要素であり、主要なステークホルダーにとっても大きな関心の的です。当社の取り組みは世界的なものですが、このレポートでは、コーヒーの購入に関する部分を除き、主に米国とカナダの Starbucks 直営店舗および世界のサプライ チェーン業務に焦点を合わせています。こうした業務は、売上のパーセントやカバーする店舗数に基づけば、コーヒーの購入と共に、Starbucks の社会的、環境的、経済的な影響の点で、最も重要な領域です。掲載されている情報には、世界のすべての Starbucks ブランドのもと、直営またはライセンス契約によるリテール店舗で販売および提供されるコーヒーの情報が含まれています。

Starbucks では、CRedit360 プログラムを使用して、主要業績評価指標のレポートと追跡、会社全体の業務と影響への継続的な可視性の提供、および承認と監査の目的で、持続可能性データを管理します。当社のパフォーマンスについて一貫した正確なレポートを作成できるように、世界的なレポートの取り組みを引き続き検証および改善していきます。

レポートの年

別途記述がある場合を除き、Starbucks の 2016 会計年度 (2015 年 9 月 28 日 〜 2016 年 10 月 2 日) を指します。

通貨

別途記述がある場合を除き、すべての通貨の単位は米国ドルです。

過去のレポート

Starbucks では、2001 年から毎年レポートを作成しています。過去のグローバル責任レポートについては、当社の Web サイトからダウンロードすることができます。

情報の整合性

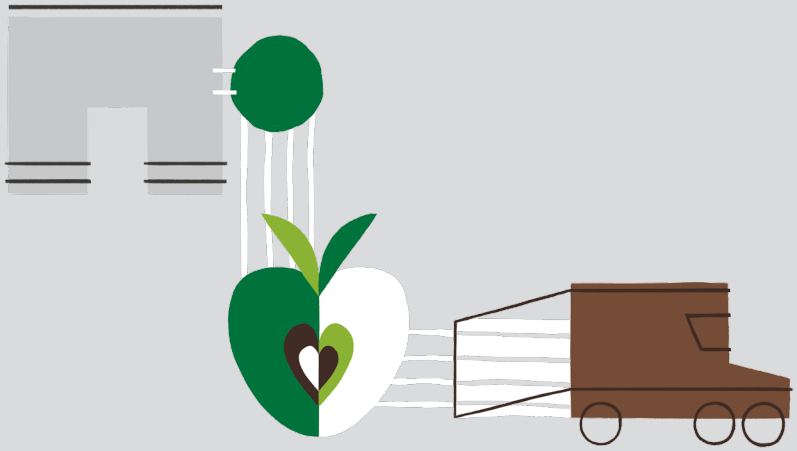
2016 会計年度でレポートされる情報の準備と整合性に関する責任は、Starbucks の経営陣にあります。社内の内容領域専門家が関与する包括的な検証プロセスなど、内部統制のシステムを経たこの情報は、2016 会計年度の当社のグローバル責任活動およびパフォーマンスを正確に表したものであると考えています。社外の検証は、Moss Adams LLP により実施されました。目標のパフォーマンスに関連するすべてのインフォグラフィックは、進行状況を視覚的に表すものであり、正確な縮尺比ではありません。

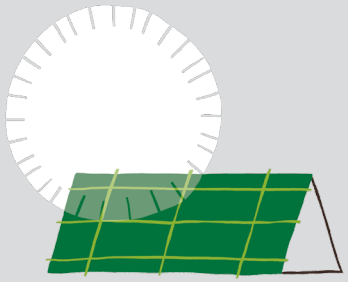
将来の見通しに関する記述

2016 会計年度のグローバル責任に関する弊社のレポートには、弊社の事業と将来の事業計画 / イニシアチブ / 目標 / 目的についての、将来の見通しに関する記述が含まれます。こうした将来の見通しに関する記述は、現在利用できる業務、財務、および競合情報に基づくものであり、数多くの重大なリスクや不確実性に左右されます。実際の将来の結果は、コーヒー / 乳製品 / その他の原材料の価格と供給、成長戦略およびその他の戦略を弊社の計画どおりに実施できたかどうか、コスト削減やその他のイニシアチブ、米国および国際社会の経済と通貨の変動、競合の影響、訴訟の影響、当社が米国証券取引委員会に提出した報告書（2016 年 10 月 2 日までの会計年度についてまとめた Starbucks Form 10-K *年次報告書*の「リスク要素」セクションを含む）で説明するその他のリスクなど、さまざまな要素によって大きく異なる可能性があります。当社には、これらの将来の見通しに関する記述を更新する義務はありません。

私たちの事業の真髄は、1人ずつ、1杯ずつ、1地区ずつ、人の精神をインスパイアし、育てることです。自分たちのミッションと価値観に常に誠実であり続けることは、私たちの役割であり、責任です。

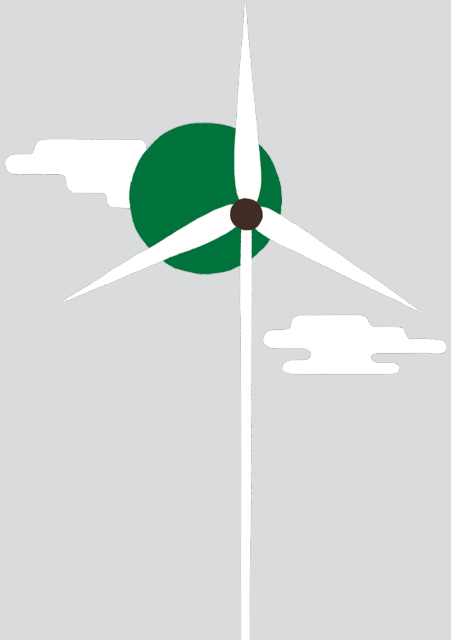
私たちは、私たちが関わるあらゆるコミュニティで、高い目的意識と確信に従って日々の業務に取り組んでいます。





皆様のご意見をぜひお寄せください

MY STARBUCKS IDEA



© 2017 Starbucks Coffee Company.All rights reserved. SBX17-257498